

# 学会参加報告

東京慈恵医大 寺内稜

## 1. 学会名

第30回日本白内障屈折矯正手術学会(JSCRS 2015)

## 2. 日程と会場(都市名)

2015年6月19-21日

東京国際フォーラム(東京)

## 3. 慈恵医大からの演題

### 一般講演/学術展示

- 『水晶体再建術時の各種眼内レンズにおける粘弾性物質(OVD)の囊内残存量の比較』 郡司久人
- 『先端を鈍的形状にした超音波チップのトーションアルフェイコにおける破囊予防効果』 柴琢也
- 『灌流マイクロダイセクション白内障手術の後房-前房硝子体膜バリアへの影響』 増田洋一郎
- 『極小切開対応アクリル眼内レンズの後囊混濁発生の検討』 小川智一郎
- 『回折型多焦点眼内レンズ挿入術後における遠方と近方のコントラスト感度の比較』 岡本俊紀
- 『屈折型多焦点眼内レンズEiEフ-1アイシーの術後成績』 高木真由
- 『灌流マイクロダイセクション法における前房内圧の術中変動』 加藤能利子
- 『27G針で後房内に固定しながら超音波乳化吸引術を施行した脱臼水晶体の1例』 大木哲太郎
- 『50歳未満で水晶体再建術を施行した白内障患者の臨床的特徴と手術成績の検討』 寺内稜

### その他

- 経験100眼までの白内障手術『理想の白内障手術指導医とは』 柴琢也
- 市民公開講座『あなたは白内障!と云われたら』(座長) 常岡寛
- Q&Aで学ぶ白内障手術の基本、OVDとマシーン『この設定が、あなたを救う』 小川智一郎
- Vivonexアイサート~その優れた実力を検証する『Vivonexアイサートの臨床成績』 柴琢也
- ハイリスク眼への白内障手術『角膜混濁眼に対する白内障手術』 柴琢也
- みんなで考える白内障手術 QOVにこだわろう(講師) 小川智一郎/柴琢也
- オープンフォーラム『眼科系アプリ 使ってみたらこうなった』 柴琢也
- ケースレポート『CCCマーカーにより前囊破損を生じた一例』 柴琢也
- 白内障術後結果の最適化を考える『眼内レンズのパフォーマンスと挿入デバイス』 柴琢也
- Best of JSCRS/閉会/表彰式 一般演題総評(白内障手術関連): 解説) 柴琢也
- Best of JSCRS/閉会/表彰式 屈折矯正手術関連: モデレーター) 常岡寛

#### 4. 学会の特徴

白内障手術及び屈折矯正手術に関する学会

#### 5. 学会参加の感想、得たもの

今回初めて一般講演で発表する機会を頂き、学会準備も含めて大変勉強になりました。個人的には、学会発表の仕方、スライドの作り方などを学ぶ良い機会と考え、一般講演を中心に参加しました。そのなかで、勉強になったことや興味深かった発表を簡単に紹介します。

ひとつ目は白内障手術の術後屈折誤差についてです。かつては術後屈折誤差の主な原因は、眼軸長の測定誤差とされていましたが、現在は光学式眼軸長測定装置の登場によって眼軸長の測定精度は高まり、測定誤差はある程度克服されたと言えます。その次に問題となったのが光学式測定装置の測定率の低さでしたが、この点に関しても IOL Master700 などの新しい測定装置の登場により改善されつつあります。そして現在は、屈折予測精度をさらに向上させるために、術後前房深度を正確に予測することが求められています。そのためには眼内レンズ度数計算式の正しい選択、また計算式自体の改良や新たな開発などが必要だということを学びました。

今年の学会の傾向のひとつとして、CTR についての演題が多かったことが挙げられました。CTR が日本で認可され、昨年 7 月に HOYA から CTR が発売されて使用可能となったことが背景にあると思われませんが、使用方法や適応、術後成績などに注目が集まりました。

興味深かった発表に、チン小帯脆弱例で超音波乳化吸引術を行う際に、水晶体嚢を固定するための新たなデバイスを使用したという報告がありました。マグネティックフォース手術と名前が付けられておりましたが(チン小帯脆弱/断裂例に対する小切開白内障手術用磁力水晶体嚢固定手技:藤本隆志)、名前の通り磁石の力を用いて水晶体嚢を固定するものです。CCC 作成後に、水晶体嚢内に磁石を挿入し、磁石の挿入部位に近い強膜にもポケットを作成、もうひとつ磁石を強膜内に挿入します。そうすることで2つの磁石が引き合い、水晶体嚢が固定されるというものでした。固定力に優れているか、また操作が簡便であるかどうかは評価が難しいものの、カプセルエキスパンダーのように、新たに切開創を作成する必要がなく低侵襲である点で優れていると考えられます。

次回の学会、第 31 回 JSCRS 学術総会は来年 6 月 24 日から京都で開催される予定です。会長は慈恵医大 0B の三戸岡克哉先生です。来年度も参加できる機会があればと思います。